

資源管理型漁業推進総合対策事業（概要）

漁業科
海洋資源科
漁場環境科

本事業は、昭和63年度から平成2年度まで3か年間実施された広域資源培養管理推進事業が、メニューを拡充再編整備し平成3年度から実施されるものである。このうち広域回遊資源は、平成4年度で第Ⅰ期が終了し、平成5年度から新たに第Ⅱ期がスタートした。

高知県では第Ⅱ期において広域回遊資源の対象魚種としてタチウオを取り上げ平成7年度までの3年間、タチウオについて第Ⅰ期同様天然資源調査及び

漁業経済調査を行うとともに第Ⅰ期の対象魚種であるイサキについてもモニタリング調査を継続した。栽培資源調査事業の対象魚種のマダイについても第Ⅱ期では平成7年までの3年間広域栽培資源放流管理手法開発調査事業として放流種苗の添加効率向上をめざした取り組みを行った。

本年度の事業報告は、資源管理型漁業推進総合対策事業報告書（平成8年3月）として別冊に作成しているの、ここではその概要にとどめる。

1 実施計画

広域回遊資源調査、広域栽培資源放流手法開発調査フロー図
図1のとおり。

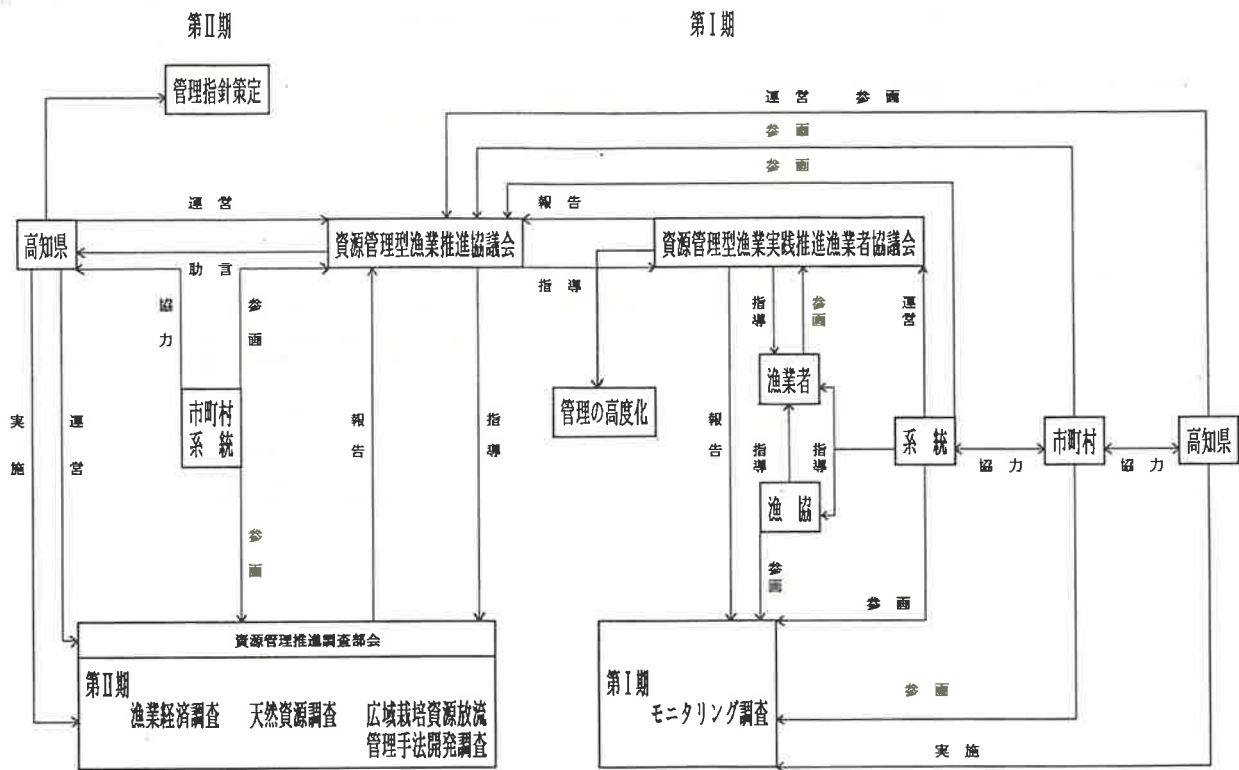
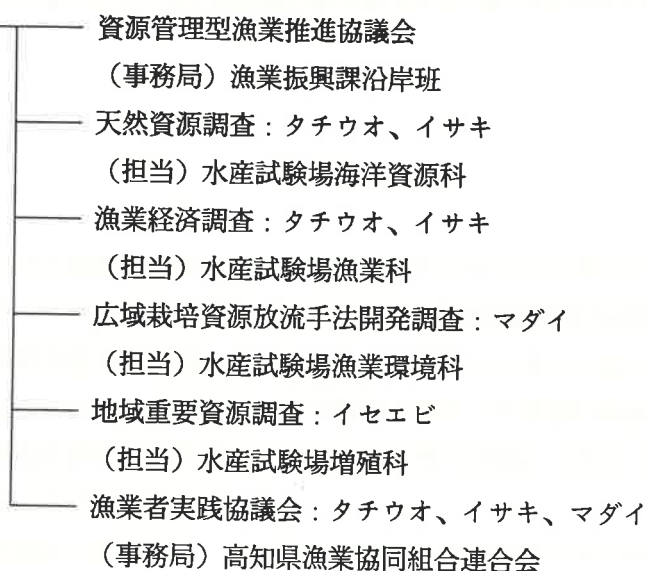


図1 広域回遊資源調査、広域栽培資源放流手法開発調査フロー図

2 実施体制

資源管理型漁業
推進総合対策事業



3 調査内容（水産試験場担当分のみ）

1) 天然資源調査

表 1

調査項目	調査の目的	実施機関	調査手法・内容等	年次計画		
				5	6	7
標本船日誌調査	漁業実態、漁場別努力量分布等の把握	水産試験場 漁業指導所	イサキ・タチウオ 漁業種類別に標本船を設定し 操業日誌の記載を依頼する。	○	○	○
魚市場調査	時期別、年齢別漁獲量の把握	水産試験場 漁業指導所	イサキ・タチウオ 市場に水揚げされた対象魚の 体長組成を計測する。	○	○	○
魚体精密測定調査	対象種の生物特性値の把握	水産試験場 漁業指導所	タチウオ 水揚げされた対象魚の外部形 態、年齢形質、産卵形質、食 性に関連する部位を測定、調 査する。	○	○	○
漁獲統計調査	主要水揚げ地における漁獲量の把握	水産試験場	タチウオ 個別水揚げ表から対象魚種の 漁業種類別、地区別、月別、 銘柄別漁獲量及び金額を調査 する。	○	○	○
モデルの検討	現状解析及び将来予測	水産試験場	タチウオ 上記の生物データ等をもとに 資源管理モデルを構築する。	○	○	○

2) 漁業経済調査

表 2

	調査項目	調査目的	調査手法・内容等	実施機関	年次計画		
					5	6	7
漁業経済	組合別就業実態調査	調査対象漁業集団の類型化	組合別、漁業種類別、階層別就業実態、経営体数兼業形態により類型化を図る	水産試験場 漁業指導所 漁協	○	○	○
	組合別経営収支実態調査	対象漁業の総経費の推定	標本船漁家経営の固定・変動経費を調査し、地区別、漁業種類別、階層別経営収支を調べる	同上	○	○	○
	魚価調査	対象魚種の水揚げ金額の推定	代表的魚市場、仲買業者等で月別、漁業種類別、地区別、銘柄別、品質別価格	同上	○	○	○
	依存度調査	対象漁業の総水揚げ金額と依存度の推定	月別、漁業種類別、地区別、階層別の対象魚種と対象漁業の水揚げ金額の割合調査	同上	○	○	○
	基本調査	管理対象漁業及び調査地区の県内での位置付け	水産業に係る基本的項目を既存資料で調査	同上	○		

3) 広域栽培資源放流手法開発調査

表 3

項目	調査の目的	調査手法・内容等	年次計画		
			5	6	7
魚市場調査	水揚げされたマダイの漁獲物組成・有標識率・年齢成長等を明らかにする。	漁獲マダイの尾叉長の測定、放流魚の確認（標識、腹鰭の有無、鼻孔開皮、痕跡）を行う。	○	○	○
遊漁船調査	遊漁船のマダイ漁獲実態、放流魚の釣獲状況を把握する。	遊漁センターの調査員等により、遊漁者漁獲マダイの体長組成、漁獲尾数、有標識魚の確認等の調査を実施する。	○		
放流手法調査	放流手法の差異による放流魚の移動、分散、受益範囲等の解明を行う。	漁業者による中間育成を実施し、100mm前後の大型稚魚の放流を行い、移動経路や再捕率の比較を行う。また、漁場造成についても検討する。	○	○	○
標識放流調査	0歳魚の標識放流を行い、放流効果、回避経路等を明らかにする。	アンカータグ標識を装着した50～60mmサイズのマダイ10千尾程度の放流を行う。	○	○	○
漁獲統計調査	漁業種類別漁獲量及び魚価等を把握する。	農林統計資料、漁協資料等により漁業種類別漁獲量、魚価等を調査する。	○	○	○

4 資源管理型漁業推進協議会の開催

平成7年9月14日、及び平成8年2月19日に高知市で開催した。